











「ふふっ♡我慢出来なかったの？
もぉっっしようがないなあ♡」

「次はちゃんごナ・カ・デ・ズ♡」





「ねえ……?コレ、な……なにをするの……?」
「ホワイトデー当日はデートで忙しいじゃん、
だから先にプレゼントあげちゃおうって」

「に……」

「んあ……」

「え……?えっと、恥ずかしいし動けないんだ
けど……えっと……?」

「え……?えっと、恥ずかしいし動けないんだ
けど……えっと……?」

「んじゃ、全国の彼氏からのプレゼントっ！」

「・・・は？・・・えっ！ちよっと、あ・・・いやあああ」

「寧々さんにプレゼントしたいネネカレはまだ一杯いるから。皆日頃の感謝をこめてるから、大事に受け止めてあげてね」

びゅるるるる

びゅるるるる

びゅるるるる

「やあ・・・流れちゃってる・・・っ、やめてっ！」

「・・・やめてっ！あ・・・あ・・・いやあ・・・」



「.....う.....あ.....ゴポゴポいってえ.....♡」

「ちゃんと全員の愛を受け止めて.....本当に

寧々さんは彼女の鑑だよ」

「あは.....ゴボツ.....ゲホツ.....赤ちや

ん.....できちや.....うあ.....♡」

ドォ...

グホ...

ドォ...

「んじゃ最後に僕と愛し合おうね？ 寧々さん？」

「.....う.....ん.....あ.....♡」





















誕生日

おめでとう
♡
4/20





closta presents

closta.net

Clor⁺12



そして、何度目かの射精をしたあとで..
率々さんは再び絶頂を迎え、激しく痙攣するのだった。
僕の出した精液が、率々さんの膈内から止めどなく溢れてくる。

「ああんーまた出てるっっ」

「ああードクドクっっっ...中に注ぎおちちゃってっっ」

あっ
ひゃううん!
きもちいいい!

こんな感じで、僕と率々さんは恋人同士として
楽しんでたりする。

こんなことずっとしてっていると、率々さんが妊娠しちゃいそっただけ
その時はその時で責任は取ろうと思ってます。
だって、率々さんは僕の最愛の人なのだから。

ああっ

ああっ
ふいふい

もっと、もっと出していいよお
私の子宮の
精液でいっぱいにしてえええ!







